

肉用牛放牧による竹林の拡大防止技術の開発

畜産センター 碓高原牧場
農林センター 森林部

要旨

竹林の拡大防止策の一つとして、竹林の竹をすべて伐採（皆伐）又は外周部（幅約10m）の竹をすべて伐採（部分皆伐）し、その周辺を含めて肉用牛を放牧することで、竹林の拡大の抑止することができる。

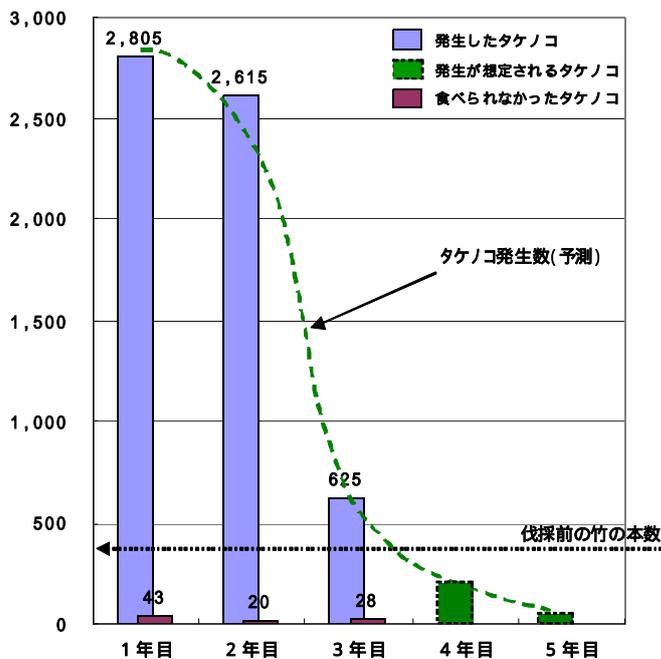
成果の概要

2月前後に伐採を実施した皆伐竹林では、通常のタケノコ（4、5月）と、人の指ほどのタケノコ（5月から11月）が3年以上発生し続けるが、放牧している肉用牛はタケノコを積極的に食べ続け、その採食率は95%以上となり、急傾斜地を除いてほとんど採食する。

タケノコの発生は5月上旬頃にピークを迎えて急激に減少するが、牛は好んでタケノコを食べるので、1頭あたり10a以上の皆伐竹林を十分管理できる。

竹林の拡大を防止するには4月から11月まで放牧することが重要である。また、牛を長期間・安心して放牧するためには、1頭あたり1ha前後の耕作放棄地等を含んだ放牧地が必要がある。

急傾斜地のタケノコは牛が食べないので、伐採する必要がある。



写真：緩傾斜地のタケノコは積極的に食べに行く

グラフ：10a当たりの皆伐竹林での発筍本数と不採食本数の推移（皆伐竹林部分21a、2頭放牧）

（問合せ先：0772-76-1121又は0771-22-1790）